

『就実論叢』第46号 抜刷

就実大学・就実短期大学 2017年2月28日 発行

# 「**道德の指導法**」 授業改善の取り組みの成果と課題

－ 学生自身が「**考え、議論する**」大学授業へ－

**Results and Tasks of Guidance method of Morality**  
－ Conversion to university class that the student thinks and discusses －

渡 邊 言 美

# 「道徳の指導法」 授業改善の取り組みの成果と課題

－ 学生自身が「考え、議論する」大学授業へ－

Results and Tasks of Guidance method of Morality

－ Conversion to university class that the student thinks and discusses －

渡 邊 言 美 (初等教育学科)

WATANABE Kotomi

キーワード：教職に関する科目 アクティブ・ラーニング 「特別の教科」道徳  
道徳の指導法

## はじめに

学習指導要領が2015年3月一部改訂され、領域「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として教科化されることになった。児童生徒が「考え、議論する」道徳授業が求められており、大学教職課程「道徳の指導法」も、これに応じて内容の変更・改善が求められるであろう。現在本学では学生は他教科については制度上教科内容学と教科指導法、少なくとも4単位は履修するが、特別活動および道徳については2単位設定となっている。教員免許法改正の方向や学習指導要領の全面改訂の方向次第でどのように単位数等の状況が変化するのは現段階では未知数ながら、より実践的、討議的な内容の導入が求められ、教員としての実践的指導力を高めるための取組が必要となることが予想される。筆者はわずか2単位15コマという短い時間設定の中であっても、学生自身が「考え、議論する」道徳授業となることが望ましいと考えており、どのような取組が効果的であるのか、試行錯誤を続けている。

本稿は、2015年度における「道徳の指導法」(小学校)の授業改善の取り組みについて振り返り、その成果および学生自身が「考え、議論する」大学道徳授業となるための今後の課題を明らかにすることを目的とする。

## I 特別の教科「道徳」と「道徳の指導法」

浅川一幸(2013)は、2008年の教育職員免許法施行規則の表記が「道徳教育に関する科目」から「道徳の指導法」に変更されたことは、「教職課程で行われる道徳教育論において道徳の原理論的な考察だけではすまなくなったことを意味している」と述べた<sup>1</sup>。教員養成段階でより実践的な指導力を求める方向が強まっており、中央教育審議会答申の変化を見比べてもそれは読み取ることが出来る。最新の答申(2015)では、教員養成に関する課題として以下2点を指摘した<sup>2</sup>。

- ・ 養成段階は「教員となる際に必要な最低限の基礎的・基盤的な学修」を行う段階である
- ・ 実践的指導力の基礎の育成に資するとともに、教職課程の学生に自らの教員としての適性を考えさせる機会として、学校現場や教職を体験させる機会を充実させることが必要である。

上記のような実践力重視の政策動向と、特別の教科「道徳」設置とは、大学での指導にはどのような影響があるのだろうか。道徳教育の充実に関する懇談会（2013）では以下のように示された<sup>3</sup>。

大学等における道徳教育に関する理論的研究の深化や研究者の養成、教員養成課程のカリキュラムの改善や指導者の確保、より発展的な指導方法の開発など、道徳教育充実のための総合的な体制整備にも有効に働くものと考えられる。

## Ⅱ 大学教職科目としての「道徳の指導法」の課題

藤永芳純（2000）は大学教職科目の「道徳の指導法」アンケートを実施し、1クラスの受講者数が30名以下の養成校は15パーセントに過ぎず、50人を超える講義は「現実には役に立たない」と指摘した<sup>4</sup>。道徳教育の専任教員が配置されている大学は極めて稀であり、教育学関係教員が担当する例が75%、心理学関係教員は7%であるという。小林宏明（2009）も、自身の受け持ち学生が100名を超えており、学生参加型授業の工夫をしながらも「学生の立場から大学の組織やカリキュラムを見直す時期に来ている」と述べている<sup>5</sup>。前出浅川（2013）は2007-2012年に出版された道徳教育論のテキスト7冊を分析し、児童生徒を「道徳的主体」として理解することが全くない」ことなどを批判している<sup>6</sup>。牧崎幸夫（2011）は学校現場での道徳の時間の指導に対する教員の不安の大もとは、教職科目「道徳の指導法」の扱いにあるとする。教育実習学生について「ほとんどの学生が、道徳の授業についてのイロハがわかっていない」と批判している<sup>7</sup>。

以上の指摘から導き出されるのは、道徳教育の充実のためには、実践的指導力を育成する各養成大学教職課程そのものの量的質的充実が不可欠であることである。担当大学教員の専門的力量的向上や人員の充実、業務負担の軽減、少人数クラス編成の実施など、解決すべき問題は数多いと考えられる。

前出の懇談会（2013）でも、履修について道徳教育の理論面・実践面・実地経験面の充実、カリキュラムの改善や履修単位数の増加の検討の必要について提案された<sup>8</sup>。

しかしまずは半期15コマという限られた時間、大人数対象のクラスを前提に構想せざるを得ない。学生が主体的に学び、理論面の蓄積と同時に実践力を付ける事が求められるという現状での授業改善が急務である。

## Ⅲ 本学2015年度「道徳の指導法」（小学校Ⅰ種免許状取得希望者対象）実施概要

- ・ テーマ 教員免許状（小学校Ⅰ種）必修科目。受講生51名。小学校での道徳指導のた

めに必要な基礎知識を身につけ、現代社会で求められる道徳教育のありかたについて考える。「道徳の時間」の指導案作成を通して実践的な力を身につける。

- ・ 形態：講義、演習、特別講義、指導案作成
- ・ 新聞記事要約課題（月1回）

テキストは村田昇編著（2009）『道徳の指導法 第二版』玉川大学出版部。（以下「テキスト」とする）。

#### Ⅳ 講義内容

2015年度授業の特徴として、以下の4点があげられる。

- 1 2015年改訂の内容を反映させようとしたこと。
- 2 極力実体験や実物提示を通して、実際の道徳授業について興味を高め考えを深めることを企図したこと。
- 3 一方通行にならないように、極力学生の発言機会を確保し、評価に反映させることを明示して学生の主体的参加の促進と意欲喚起とを目指したこと。
- 4 新聞記事を教材に極力盛り込み、学生自身に読解力と思考力をつけさせようとしたこと。  
毎月の提出課題として、新聞紙面を読み抽出要約コメントする作業を通して、新聞そのものを読み解く能力や多面的思考力、論理的思考力を身に付けさせようとしたこと。

2014年度までの実践と大きく異なるのは、1の内容に加え、指導案作成作業等の作業を提出課題として家庭学習の時間を確保したこと、講義内で考え、発言する時間を増やした点である。

受講生は全員小学校I種免許取得希望者（2～4年次生）である。教職必修科目であり、2年次に単位取得できなければ、本学標準の3年次教育実習は不可能となる。小学校・特別支援学校教員志望者が大半であり、総じて真面目で熱心な受講態度で臨んでいる。

##### 第1回 授業概要（講義）

- ・ 授業の概要と目的、評価方法等について説明する。
- ・ 教科の3条件（1 検定教科書が発行されている 2 中等教育段階では教科個別に免許が存在→教員養成課程がある 3 数値による評価が行われる）について考え、回答させる。
- ・ 小学校の教育課程5領域についての確認を行った。「領域」という概念が無く、「道徳の時間」が教科だと認識する学生が多数である。教職科目の「小学校教育課程論」は同時期の受講で、学習指導要領等、教育課程の規定や理念についての知識はまだ浅いためである。

##### 第2回 道徳教育とは何か（講義）（テキスト1章）

テキストをもとに、「倫理」と「道徳」の違い、「法律」と「道徳」の違い等について説明

した。学生はこれまで「知識」として道徳や倫理については学習していても、その深い学びや哲学的な考察については、まず触れたことがないと思われる。抽象的な概念の説明には苦慮した。

### 第3回 道徳教育の歴史①（講義）（テキスト2章I）

テキストにそって概説を行った。特に強調したのは以下の2点である。

#### 1：教育勅語の解釈

- ・教育勅語の徳目を抽出し、数える。学生によって数が違うがそれは問題ないとした。
- ・教育勅語の徳目の解釈自体、また徳目の強調のされ方が時代によって変化したことを解説した。さきほどの抽出した徳目のどれが最も重視されるようになったかを考えさせる。現代語訳（高嶋伸欣訳）を提示し、「天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」部分の強調のされかたについて解説した<sup>9</sup>。2：国定修身教科書の記載 山田恵吾・貝塚茂樹編著（2005）の第4章・5章を参考に、国定修身教科書の画像を用いて内容の変化を理解させる<sup>10</sup>。第1期の特徴として、外国人を望ましい人間像の例として多く取り上げていることを示し、ワシントンの「正直」教材、二宮金次郎の「勤勉」教材の例を示す。



次にテキストの「木口小平」教材に引用された語句の、実際の教科書画像を見比べる。左は国定修身教科書 第2期、右は第3期の記述である<sup>11</sup>。徳目はいずれも「チュウギ」となっている。①記述の変化②児童の受ける印象の違いについて考えさせる。同じ状況の説明にもかかわらず、記述が変化していることに気づかせる。①では「ラツバヲクチニアテタママシニマシタ」と「シンデモラツバラクチカラハナシマセンデシタ」という記述を見比べ、右ではただ戦死したのではなく、「ちゅうぎ」のために、職務を全うする姿を強調する記述となっていることに気づかせる。②では、第1期は徳目は「ユーキ」であったことにもふれ、児童がこの記述を見て受ける印象について考えさせる。また、実際に復刻版国定修身教科書巻一を

回覧し、戦前期の国定教科書の体裁や編集の特徴を考えさせる（筆者私物の3・4期を使用）。

#### 第4回 道徳教育の歴史②（講義）（テキスト2章Ⅱ）

戦後の道徳教育の歴史について概説した。「修身」授業の停止、「全面主義的道徳」の特徴、1958年学習指導要領改訂による「道徳の時間」の特設の特質について概説した。その後の改訂について、特に2008年改訂を中心に概説した。「心のノート」「わたしたちの道徳」それぞれについて導入の経緯や特徴について概説した。それぞれの冊子の実物を提示し、パワーポイントならびに冊子の回覧を通して、学生に授業者の立場からその特徴について考えさせた。

#### 第5回 道徳性の発達（講義）（テキスト第3章）

DVD「道徳性の発達」のピアジェ・コールバーグの説明部分を視聴<sup>12</sup>した。ピアジェの道徳性の発達理論について概説。コールバーグの6段階の発達理論について説明し、「ハインツのジレンマ」の例を挙げて、どの価値判断が6段階に当たるか、プリントによる問題演習を行った。ほとんどの学生は第4段階までは正解するが、第5段階と第6段階で意見が分かれた。第5段階は双方の権利保持、第6段階は抽象的観念的な倫理原則であるが、いずれも抽象的であることから、多くの学生にとまどいがみられた。ギリガン等の批判に見られるように、絶対普遍的な理論では無いことも説明した上で、そこから提唱された「モラルジレンマ」授業について簡単に紹介した。

#### 第6回 道徳教育の授業理論（講義）

主としてアメリカの例をあげ、2つの道徳教育理論の潮流について説明した<sup>13</sup>。

##### 1：本質主義

小寺・藤永（2016）等を用いて概説した。インドクトリネーション、インカルケーションという方法理念について説明した。戦後日本の道徳教育は、主としてインカルケーションが主流であったことを説明。例として「ないたあかおに」の学習指導案を提示して、読み、考えさせた。

##### 2：進歩主義

同じく小寺・藤永を用いて概説した。第5回で紹介したモラルジレンマ授業の教材例「なくしたかぎ」を提示した<sup>14</sup>。前出の「ないたあかおに」との違いについて考えさせる。指導案の書式（学習活動と主な発問を記入したもの）を配布し、空欄（予想される児童の反応や指導上の留意点）補充作業を行わせる。学生の記入内容を、板書に書いて発表させる。「約束を守る」「友人を助ける」どちらを選ぶかの葛藤場面をめぐって、予想される児童の反応について学生は、積極的に最善策を考え発表していた。学生があまりに簡単に解決策を提示してしまう状況となったので、以下のように筆者は指摘を行った。対象である小学校3、4年生がこのように考えを進めてゆくための支援や、はたらきかけこそが教員として求められる

能力であること、児童がある解決策を提示したら、なぜそう思ったか、他に解決策は無いかなどの発問の工夫の必要性について述べた。

## 第7回 道徳教育の目標と内容（講義）（テキスト第4章）

1：道徳教育の目標 改正教育基本法・現行学習指導要領の総則・道徳部分から、道徳教育の目標にあたる部分を指摘させる。（文献）の「道徳教育の構造」を解説し、学校の教育課程における道徳教育の構造について全体的な理解をはかる。次に総則部分から、改正教育基本法に関連する部分を探すなどの作業を通して、自分なりの理解を深めるようにする。

（総則）

小学校学習指導要領（平成20年3月告示）第1章総則第1 教育課程編成の一般方針

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏（い）敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓（ひら）く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

2 学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

### 2：道徳教育の内容

4つの視点の説明、「道徳」内容項目の学年・学校別発展図（テキスト pp.75-76）についての解説を行った。各内容項目には、1 すべての学年段階で継続的・発展的に指導する内容 2 学年段階が上がるにつれて新たに加わる内容 3 学年段階が上がるにつれて統合、分化する内容があることを説明<sup>15</sup>。例として2-（2）思いやり・親切に関する項目について、表および学習指導要領の本文を参照しながら説明した。

1/2学年 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。

3/4学年 相手のことを思いやり、進んで親切にする。

5/6学年 だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。

これは上記分類の1にあたるが、学年によってどのように強調される部分が異なるかを、学年ごとの実際の学習指導案の例を提示して読み比べをさせた。

## 第8回 道徳教育の全体構想・計画（講義）（テキスト第5・6章）

テキストに基づき、道徳教育の全体計画について概説した。学校の教育目標や児童の実態に合わせて、道徳の重点目標を設定し、低中高学年ごとに重点目標を立てることについて概説した。各教科・領域毎の計画立案も必要となることから、学校内全体、学年団での連携が

必要であることを述べる。

後半は、新聞記事（「命学んで少子化対策」朝日新聞、2014年9月24日付）を読み、小中学校で実施される少子化対策授業の取り組みと背景について考えさせた。「命の大切さ」について学ぶことは道徳教育の重要な要素であり、少子化対策としての取り組みは道徳教育と重なる部分があることを話した。学生からは「少子化は社会の大きな問題だから、様々に取り組むのは必要だ」「子どもを産みたくても産めない人にはつらい状況になる」「待機児童対策や保育園の充実が先だ」といった意見が出された。

#### 第9回 道徳の時間の指導案づくり①「わたしたちの道徳」（演習）

はじめに、学習指導案全体の作成方法について説明した。受講生は他教科については何度か作成経験があるため、一般的な説明は省略した。テキストの解説に沿って、導入－展開－終末それぞれの内容について説明した。実践例として、現在の公的教材である「わたしたちの道徳」を使用して、指導案づくりに取り組む。1/2年生教材「およげない りすさん」を使用して、実際に作業を行った。

学生はおおむね、導入・展開・終末の流れに沿って発問等を考え記入していた。おおむね、スムーズにまとめることが出来ていたように思う。しかし以下のような課題も見つかった。

- ・「りすさん」(主人公)の気持ちの変化はしっかり押さえることが出来ていたが、「かめさん」・「あひるさん」・「白鳥さん」それぞれの気持ちの変化の確認が不十分な学生が見られた。
- ・考えられる児童の反応が一面的で、他と違う考えの子ども意見が想定しにくい学生がいた。
- ・指導の背景やねらいを示すことが必要であるが、明示できない学生がいた。例：いじめ、障害者差別など、学校や社会で想定される状況への関連を持たせていない。授業する学級の人間関係の状況を想定できない。

#### 第10回 道徳の時間の指導案づくり① 受講生オリジナル教材（演習）

第1回授業時に予告した課題（自分が道徳の時間で授業したい教材を選択、作成）を持参させ、各自で指導案作成を実施した。彼等が選んだ教材の多くは、幼少期以来印象に残った絵本（百万回生きたねこ、等）や小説、ドキュメンタリーである。人物としてはスポーツ選手であるイチロー選手やなでしこジャパンメンバー、乙武洋匡氏等が取り上げられていた。その素材から自分がうけた感動や考えたことをどう小学校教材化し、45分の授業（2時にわたるのも可とした）において実践するかを自分で考え、指導案にまとめた。1コマではとても時間が足りないため、残りは後日の提出課題とした。

#### 第11回 新しい道徳授業の方向 多様で効果的な指導方法の例

中央教育審議会答申（2014）では、「道徳的習慣や道徳的行為に関する指導、問題解決的



な学習や体験的な学習、役割演技やコミュニケーションに係る具体的な動作や所作の在り方等に関する学習などの指導を、発達の段階を踏まえつつ取り入れることも重要である」と示されている<sup>16</sup>。本時では、問題解決的な学習や心理学的体験学習(モラルスキルトレーニング、エンカウンター等)が注目され取り入れられていることを説明した。いくつかの指導方法を例示した後、エンカウンターを取り入れた授業(「私の宝もの・あなたの宝もの」)を紹介したのち、実際に学生が児童役となり、筆者が授業を実践した<sup>17</sup>。実物を持参せず紙に書き、グループ発表ではなく全員での話し合いを行った点は変更点である。以下は実際の実践をうけた受講生のコメントである。良い点・悪い点、矢印は受講生自身が示したその改善策である。

宝物授業へのコメント(実物持参、グループごとの実践を行うと仮定して)

良い点

意義

- ・他人のことを考える事が無意識に出来るようになるきっかけ
- ・みんなが笑顔で話せる。仲良くなれるし相手に興味を持てる
- ・お互いをよく知り、知らなかった意外な一面を見ることができる
- ・自分自身の宝物を思い返すことで、自信や安心感につながる。宝物を改めて大切に。自分にとって本当に大切なものは何かを見つめ直す
- ・他者のそれを選んだ理由を予想することで、他者の多様な価値観を読み取ろうとする力がつく
- ・自分らしさの自覚、友達の良さに気づく
- ・宝物が同じであっても、ひとりひとり大切な理由が違うことに気づく。個性が出る。
- ・相手を思いやり相手の気持ちを大切に作る気持ちが生まれる
- ・友達同士の信頼を深める
- ・他者の多様な経験を知り共有できる
- ・コミュニケーション力、団結力向上につながる
- ・理由を考えることで思考力がつく
- ・プレゼン能力が身につく。

運用

- ・クイズ形式で楽しく取り組める
- ・討論形式を発展的に入れるとよりよい
- ・児童が生き生きと授業に乗ってくれる
- ・大きな拍手で賞賛するのはよい

- ・宝物以外のことでも活用できる授業パターンだと思う

課題点・改善すべき点

宝物の選択・持参

- ・クイズの前に答えを教えてしまう、持ってくる時にばれる可能性がある
- ・持参を忘れると劣等感を感じる
- ・紛失の危険
- ・物理的に持って来られない場合(大きい、生き物、思い出など)がある
- 写真や絵のほうがいい
- ・小学校低学年は好きなものが重複しそう
- ・なかなか見つからない、絞れない児童が出てくる。
- 思いっただけ書かせて、その中から紹介しようと思うものを選ばせる
- ・家庭の事情、いじめなどで宝物がない、あるいは探す余裕がない児童への配慮が必要
- 夢がふくらむもの(行きたいところなど)をテーマにする
- 食べ物、趣味などにしぼる

発表時・間違いの選択肢を考えること

- ・家庭の事情、いじめなどの事情で、家族や友人の話の聞きたくない児童がいるかもしれない
- ・同じ宝物であることを、あの人とはいやだ、などネガティブにとらえてしまうかもしれない
- ・人によって反応の態度を変える児童が出てくる

- かも知れない。宝物を馬鹿にされたらつらい
- なんでそんな理由なのかと責める、ばかにする発言が出ないようにする。
- ・ 注意しないと、危ない言葉や差別的な発言が出る可能性。(宝物を笑う、変な選択肢を出す)
- 教員の支援、はじめの注意などが必要
- ・ 宝物の理由を考えるのが難しい。わかりきった理由しかかけない。ふざけた選択肢を出す。嘘の理由を考えるのは難しい
- 先生がお手本を示す

#### 意義について

- ・ 宝物の発表で、必ずしも自分らしき同級生の良さに気づけるわけではない
- ・ お楽しみ会感覚で終わってしまう

- 授業実践の趣旨を教員が説明する必要がある、まとめをしっかりと
- ・ 途中から面白くて悪ふざけをするかもしれない

#### 実施上の注意

- ・ 宝物を選んだ理由を聞いた後の感想を言う機会があるとよい
- ・ 学期末がよい
- ・ 保護者に伝えておく。参観日がよい
- ・ グループ分けは男女混合などいろいろな人と
- ・ 自分のことで夢中になり他者の話を聞いたり拍手したりがおろそかになる
- 振り返りでは、自分の発表だけでなく人の話をちゃんと聞けたかを重視する

小学生の立場と教員としての立場の両面から、授業の課題について考えられるようになっていく。児童自身が主体的に参加し、誰もが意見を言える授業法であることを、受講生が実感できる場となった。こうした体験型授業は、できるだけ学生自身にも参加させることが望ましいと考える。

#### 第12回 新学習指導要領（2015年改訂）における道徳教育の特徴①（講義）

道徳の教科化をめぐる政策動向について概説し、教育課程部会「考える道徳への転換に向けたワーキンググループ（2016）「資料4 道徳教育について」<sup>18</sup>等を参照し説明。想定される教科書については教科用図書検定調査審議会（2015）「特別の教科道徳」の教科書検定について（報告）」をもとに、教科諸検定基準について説明した<sup>19</sup>。

#### 第13回 新学習指導要領（2015年改訂）における道徳教育の特徴②（講義）

十勝教育局義務教育指導班（2015）「「特別の教科である道徳」（「道徳科」）の実施に向けて」を主資料として説明した<sup>20</sup>。現行学習指導要領の内容と改訂版の違いを、対照表によって確認させる。ここから気づいた点を各自記述させ発表させた。

#### 第14回 「道徳の時間」 特別授業の実施（演習）

当時初等教育学科4年生のS君に、卒業研究で扱った道徳授業案を実地に行ってもらった。題材は「友達」である。近年提唱されている「モラルスキルトレーニング」授業の課題について検討し、改善案を取り入れた授業を実践してもらった。受講生は非常に熱心な態度で臨んだ。小学5年生になりきって参加し、活発に意見をのべた。授業後も細かく質問や意見が

発せられ、充実した時間となった。受講生には「良かった点」「私ならこうする点」についてアンケート用紙を配布記入して貰った。S君はもちろん、筆者も気づかなかった視点が提示されたものもあり、学生の主体的な考えを引き出すことができたと考える。また授業者本人が、自らの卒業論文について再考察し、課題を発見できたことも大きな収穫といえるだろう。

#### 第15回 総括（講義）

各回の振り返りを行った。

今回の授業評価アンケート結果を以下に示す。総合評価(Q5)は4点満点で3.38となった。

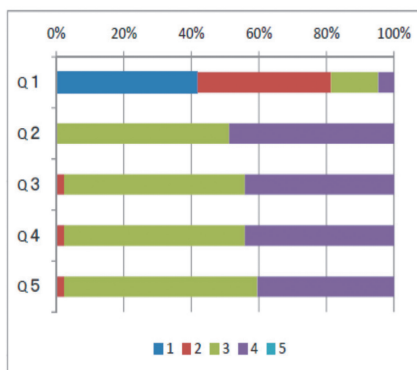
#### 2015年度後期 時間割別「授業評価」

履修者数	51
有効解答数	43
回答率	84.3%

科目名 道徳の指導法(初等)  
 コマ位置 金曜日・2時限  
 教員名 渡邊 言美

回答番号	評定平均	評定平均 (全体)
Q1	1.81	1.89
Q2	3.49	3.37
Q3	3.42	3.27
Q4	3.42	3.31
Q5	3.38	3.34

【Q1のみ5択 Q2～Q5は4択】



Q5の理由欄では以下のようなコメントがあった。(各評価の数値は不明)

内容に関して

- ・ 道徳は難しいが、分かりやすく、いろいろなパターンを示してくれたから。

進行や形式に関して

- ・ 授業の進行がとても丁寧です。

受講生の受講態度が真摯で熱心であったことも幸いしてか、概ね高評価を受けることが出来た。

#### IV 授業の成果と課題

- ・ 筆者の考える成果は以下の通りである。

1：学生自身が考える素材を多数用いたことにより、主体的に道徳授業について多面的に考えることができた点。

- 2：4年生の模擬授業を実施したことで、受講生が小学生と教員、いずれの立場からも道徳授業の方法について考察することが出来た点。
- ・ 以下は課題である。
- 1：議論する授業を目指しながらも、学生同士が議論をする機会がなかなか設定できなかった点。
- 2：現行（2008年改訂）指導要領の内容と、改訂版（2015年改訂）指導要領の内容を同時に扱わざるを得なかった。回によっては両方を取り上げて講義したため、学生はとまどいをみせていた。新しい検定教科書の具体的内容も明確でないままに新指導要領の道徳授業の内容を提示するには非常な困難を伴った。
- 3：他教科と決定的に異なるのは、道徳授業は「めあて」そのものについて、答えが1つにできない事柄を扱うことになり、はっきり提示しにくい事だと考える。例えば、「うそはよくない」という道徳的価値そのものも、実際の生活場面に於いては行動に結びつかない事もある。他者への配慮のもと、うそをつくことが許容されると考えられる状況も起こりうる。一面的に「うそはよくないからやめる」という教え込みは、「考え、議論する」道徳にはなじまない以上、指導のゴールを明確にしえない可能性がある。学生はもちろん、教員である筆者自身が明確に「こうすればいい」という指導方法を打ち出すことが難しい部分があることを痛感した。
- 4：教員となった受講生には、今後記述式の道徳科の評価を行うことが求められる。評価項目や基準について講義内で十分に示すことはできていない。さらには児童の心に関する内容の評価の困難さを、小学校授業を行う学生にどう実感させ、評価法について考えさせるかが大きな課題である。
- 5：講義技術面で言えば、板書や資料提示にさらに工夫が必要である点。15回に多くの内容を盛り込み、時間が足りなくなって早口で急いで進める場面も多く、学生の評価を下げる結果となったのではないか。
- 6：課題の新聞記事コメント、学習指導案を授業の中で活用することが出来なかった。15回、90分の中では難しかった。学生の学びを反映させる方法を模索したい。
- 7：期末試験は事項・語句の知識を問う問題と、論述式で授業内容の理解度を計る問題を出題した。残念であったのは、重要語句の暗記、重要事項の理解が不十分な学生が見られたことである。主体的に取組み、自分の意見を述べる事は出来ていても、学習指導要領や法規の事項の知識が定着しきれないという課題が残った。

#### 【新聞記事課題】

1. 新聞名・日付
2. 要約 ただし「リード」がある場合は書かなくても可。
3. 批判①記事の内容についての意見 良い点、悪い点、疑問点、反論など ②新聞記事そ

のものの報道・編集・表示についての意見 良い点、悪い点、疑問点

【道徳の時間 学習指導案課題 要項】

- ・ しめきり 1月29日（金）2限 授業時 ・学科 番号 氏名 明記
- ・ 以下3点を提出のこと。間違えないよう一括で綴じる等工夫してください。

- ・ 1枚目 ねらい 他。現行指導要領参照。
- ・ 2枚目以降 枚数自由 指導案。
- ・ 書式自由。配布用紙書き込み、新規作成いずれも可。既存フォーマット使用可。分量制限なし
- ・ 資料コピー。コピーが無い場合は、実物が写真等。

- ・ コピペ厳禁。判明すれば採点しません。
- ・ 2時以上を構想する場合は、それぞれ示しても可。1時のみ示しても可。ただし全体構想を示すこと。
- ・ 現行（平成20年改訂）指導要領に従ってください。
- ・ ワークシート等配布を考えると、実際に児童に配布したい形で作成してください。

【授業評価アンケート質問項目】

【問.1】あなたはこの授業のために予習・復習をしましたか。週平均時間で教えてください。

- ① していない ② 30分未満 ③ 30分～1時間 ④ 1時間～3時間 ⑤ 3時間以上

【問.2】担当教員の授業に対する熱意・意欲を感じましたか。

- ① 全く感じなかった ② あまり感じなかった ③ 感じた ④ 大いに感じた

【問.3】授業の進め方（声の大きさ・明瞭さ、板書、配付資料、視聴覚教材、e-ラーニング等）は、理解しやすいように工夫されていましたか。

- ① 全く工夫していなかった ② あまり工夫していなかった ③ 工夫していた ④ よく工夫していた

【問.4】この授業を受講することで、扱われた分野への興味が深まりましたか。

- ① 全く深まらなかった ② あまり深まらなかった ③ 深まった ④ 大いに深まった

【問.5】あなたは、この授業全体としてどのように評価しますか。

- ① 非常に悪い ② 悪い ③ 良い ④ 非常に良い

【問.5】で、①から④と評価した理由を書いてください。

註

<sup>1</sup> 浅川一幸（2013）「道徳教育論を考える」『北海道大学大学院教育学研究院紀要』119。

<sup>2</sup> 中央教育審議会（2015）「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」〈要約版〉。

<sup>3</sup> 道徳教育の充実に関する懇談会（2013）「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）」

～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～」p15。

<sup>4</sup> 藤永芳純 (2000) 「大学の教員養成における「道徳の指導法」の現状と課題」『道徳教育学論集』第10号。

<sup>5</sup> 小林宏明 (2009) 「学生が意欲的に取り組む授業の在り方についての考察—「道徳の指導法」の授業を通して—」北海道教育大学釧路校研究紀要『釧路論集』41。

<sup>6</sup> 前出1。

<sup>7</sup> 牧崎幸夫 (2011) 「道徳の時間の実践的指導力の育成」『龍谷大学論集』478。

<sup>8</sup> 前出3、p22。

<sup>9</sup> 徳目解釈の変遷については、籠谷次郎 (1994) 『近代日本における教育と国家の思想』阿吽社、pp.131-139参照。現代語訳は高嶋伸欣 (1990) 『教育勅語と学校教育』岩波ブックレット No.174参照。高嶋訳を用いたのは、「緩急」の意味を直截的にわかりやすく述べていると判断したからであり、政治的意図は無いことをお断りしておく。

<sup>10</sup> 山田恵吾・貝塚茂樹編著 (2005) 『教育史からみる学校・教師・人間像』梓出版社、pp.168-176。

<sup>11</sup> 海後宗臣 (1962) 『日本教科書大系』近代編 第3巻 修身 (三)。左は P65、右は P129。

<sup>12</sup> DVD Learning Seed (2010) 『子どもの道徳性の発達：理論・段階・影響』（日本語版 2011）V-tone ビデオライブラリー。

<sup>13</sup> 小寺正一・藤永芳純 (2016) 『四訂 道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社、pp.109-126。

<sup>14</sup> 荒木紀幸 (1990) 『モラルジレンマ資料と授業展開—小学校編—』明治図書 掲載「なくしたかぎ」改変資料 (道徳教育研究発表会 (2011) 配付資料、加西市立下里小学校)。

<sup>15</sup> 赤堀博行 (2010) 『道徳教育で大切なこと』東洋館出版社、pp.62-77。

<sup>16</sup> 中央教育審議会 (2014) 「道徳に係る教育課程の改善等について (答申)」。

<sup>17</sup> 諸富祥彦 (2014) 『ほんもののエンカウンターで道徳授業 小学校編』明治図書出版、pp.28-29。

<sup>18</sup> 教育課程部会 考える道徳への転換に向けたワーキンググループ (2016) 「資料4 道徳教育について」[www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/.../1375323\\_4\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/.../1375323_4_1.pdf) (2016.11.2閲覧)。

<sup>19</sup> 教科用図書検定調査審議会 (2015) 「特別の教科道徳」の教科書検定について (報告) [www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/.../1360229\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/.../1360229_01.pdf) (2016.11.2閲覧)。

<sup>20</sup> 教科用図書検定調査審議会 (2015) 「特別の教科道徳」の教科書検定について (報告) [www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/.../1360229\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/.../1360229_01.pdf) (2016.11.2閲覧)。